変化を恐れず、違いを楽しむ。

中学校教師　荒木　健志さん

人から愛される、自立した生徒に育って欲しい―熱い思いを持って、中学校の教壇に立つ荒木さん。

大阪、北九州での教員経験を経て、2022年4月から薩摩川内市へJターンしました。移住先の決め手は一つの地域でじっくり教育に携わりたいという荒木さんの夢と地域おこし協力隊として活動したいという奥様の夢の両方を叶えられるという点でした。

おいしい食、人情味あふれる土地柄、質のいい温泉と、薩摩川内市ライフを満喫する荒木さん。

剣道に対しても並々ならぬ情熱を持ち、部活動の指導の他、地域の剣道の稽古にも積極的に参加しています。

鹿児島の剣道競技人口を拡大したいという思いを胸に、今日も生徒や地域の方々とともに汗を流します。

薩摩川内市

Jターン Iturn

教育、剣道、協力隊・・・
夫婦それぞれの夢を叶えられる場所。

移住のきっかけ、決め手はなんですか？

出身は鹿児島県指宿市です。理科と剣道と学校が好きだったことから教員を志し、岡山県の大学を卒業後、大阪府池田市で7年間、北九州市で2年間、中学校の理科の教員として勤めました。大阪では人権教育、北九州では特色あるSDGs教育が勉強になりました。「故郷鹿児島の転勤のない私立校で地域に根差した教育を続けたい」という思いが芽生え、ちょうど、地域おこし協力隊として活動したいという妻の夢も叶えられる場所として、薩摩川内市を選びました。

薩摩川内市でどんなお仕事をしていますか？

2022年4月かられいめい中学校に勤めています。義務教育は卒業後の自立を導く役割です。でも、人は一人では生きていけませんから、自立した生徒を育てること、人から愛されるような人を育てることを教育のテーマにしています。理科の授業の中では、生徒たちの思考を深めるような教材研究や授業設計に力を入れます。例えば、地震のP波・S波を学ぶ単元では、東日本大震災の津波の映像を見ながら視覚的に学び、どのような備えが必要か、私たちは被災地にどのような支援ができるか考えます。生徒たちの意識に変化が見られた時、とてもやりがいを感じます。

理科の授業風景

薩摩川内市のどんなところが好きですか？

温泉・食べ物・人です。質のいい温泉を近くで楽しめ、剣道の練習後の汗を流すのにもよく利用しています。人情味溢れる人が多く、とても住みよい街だと思います。また、家賃や駐車場代は大阪にいた頃の半分ほどになりとても助かっています。

これから移住を考える人へのアドバイスは？

薩摩川内市に限ったことではありませんが、今までと違う土地へ移住するということには様々な変化が伴います。変化を恐れず、違いを楽しむという気持ちが大切なのではないでしょうか。迎えてくれる地域の方々の思いを大切に、こちらも心を開いて、その土地へ飛び込んでみることだと思います。

部活では剣道部の顧問を担当

これから薩摩川内市でやっていきたいことは？

部活動で剣道部の顧問をする傍ら、週に2回、市内の剣道の練習にも参加しています。中学は多感な時期。私も中学の頃は些細なことで人と比べて悩むことがありましたが、剣道の恩師が「負けないことも大事だが、負けたことに負けないことが大事」と指導してくださり、悩みながらも成長できたと思っています。私もそんなふうに剣道を通して人を育てていきたいと思い、剣道の楽しさを薩摩川内市から広げ、競技人口を増やして盛り上げていきたいです。

学校の同僚からのコメント／柏木大海さん

荒木さんとは理科の授業と剣道部の顧問を一緒にしています。よく食事にも出かけます。情熱溢れ、生徒思い。部活動の練習前に、生徒に色々な話をすることでモチベーションを上げるなど、コミュニケーションを大事にしている姿が印象的です。また、剣道を通して地域を盛り上げたいと地域の稽古会にも積極的に参加していて、並々ならぬ熱意の人だと思います。

DATAで鹿児島と東京の暮らしを比較

生活費で最も大きな割合を占める家賃。基本的に、中都市や小都市、町村よりも大都市の方が家賃は高い傾向があります。特に東京は、ほかの地域に比べて地価が高く、家賃差にも反映されてしまいます。

出典：平成30年住宅・土地統計調査

1ヶ月当たりの家賃

鹿児島 39,324円　東京 82,347円

夢叶う。美味しい笑顔広がる。

写真：小田初美さん（左）と夫の淳也さん（右）

「喫茶アカリトキ」経営 小田　初美さん

川内川沿いの空き倉庫を活用した商業施設「SOKO KAKAKA」。古本屋、チーズケーキ屋、花屋など７店が入る空間の真ん中に、小田初美さん・淳也さん夫婦が営む喫茶「アカリトキ」はあります。

様々な出店者さんの顔が見えるオープンスペースで、自家焙煎珈琲と焼きたてパン、お惣菜やスイーツでほっこり。

「店舗同士、商品を勧め合ったり、不在の時は代わりに売り子をしたりと協力的で、この雰囲気が好きです」と初美さん。

「今度は私たちが、移住者の支えになりたいです」と笑顔で語ってくれました。

薩摩川内市

Uターン U-turn

京都の飲食業界で 20 年修行。
空き倉庫を改修した施設で賑わい創出。

移住のきっかけ、決め手はなんですか？

京都出身の夫が、「薩摩川内市で自分の店を持ちたい」と言ってくれたことです。私は「え？いいの？」と驚いて、むしろ私の方が、「刺激の多い京都にもっといたい」と思ったくらいでした（笑）。でも、地元に戻ってチャレンジするのも面白そうだなと考えるようになり、京都のいろんな飲食店で修行したり、薩摩川内の人とつながりを作ったりしながら移住・開業の準備を進めてきました。下の子どもの小学校入学をきっかけに、2019 年 4 月に U ターンしました。

薩摩川内市でどんなお仕事をしていますか？

2021 年 11 月から空き倉庫を活用した商業施設「SOKO KAKAKA」の中にポップアップ出店し、2022 年 11 月から常設店として営業を始めました。夫が調理、私が接客をしています。

出店のきっかけは、息子の習い事の送迎中、ラジオで「SOKO KAKAKA」プロデューサーの田尾さんが喋っているのを聞いたことでした。「川内川に人が集まる風景をつくりたい」と故郷への想いを熱く語られていてビビッと来ました。翌日にマルシェがあると告知をされていたので、早速会いに行きました。ネットで田尾さんの顔を調べていたので無事にお会いできました（笑）。「SOKO KAKAKA」の構想を聞いて共感し、オープンからご一緒したいと申し出て出店者として入れてもらいました。田尾さんには資金調達や創業などで何かとアドバイスいただき本当に心強い存在です。

川内川を日常的な居場所に「SOKO KAKAKA」

「喫茶アカリトキ」

薩摩川内市のどんなところが好きですか？

何もしなくても人が来る京都に比べて、「どうしたら人を呼び込めるか」と一生懸命に考えている人たちが多いなと感じます。夫は初めて鹿児島に来た時、「美味しくて新鮮な食材がスーパーで簡単に手に入る」ことに感動し、薩摩川内市で店を持ちたいと思ったそうです。

教育面については学校が熱心に指導をしてくれているのかなと思います。京都では塾や複数の習い事に通っているのが当たり前でしたが、薩摩川内市では京都よりも習い事に通う方が少ない印象です。

これから薩摩川内市でやっていきたいことは？

たった二人で始めた店ですが、スタッフが増え賑やかになって嬉しいです。お客様には気軽に来てゆっくり過ごしていただきたいですし、私たちがここに根を張り、「SOKO KAKAKA」を盛り上げて、次に移住してくる方の不安を解消し挑戦を後押しできる存在になりたいです。

ご主人はパン、惣菜、スイーツ担当

自家焙煎のコーヒーと焼きたてのパン、丁寧に仕上げた和洋の惣菜やスイーツを提供

これから移住を考える人へのアドバイスは？

私たちはいつか薩摩川内で店を持ちたいと思って準備をしてきましたし、親族の繋がりもありましたが、全く繋がりがない状態での移住・開業は、お客さんや仕入れ先とどうつながったらいいかなど、苦労すると思います。時間をかけて積極的にいろんな人とつながっていくことをお勧めします。

「SOKO KAKAKA」オーナーからのコメント／田尾 友輔さん

土日のイベント時しか開けていなかった SOKO KAKAKA を、小田さんが毎日開けてくださることになり、地元の人たちが立ち寄れる場所になりました。川内川沿いに新しい可能性をもたらしてくれた小田さんに感謝しています。移住・創業は簡単ではないと思いますが、薩摩川内に定着して成功してもらえるよう、サポートをしていきたいです。

DATA で 鹿児島と東京の暮らしを比較

鹿児島では東京に比べ、教員１人あたりの児童数が少なく、一人の子どもに寄り添えて、きめ細かな指導の充実が可能となり、手厚いサポートが期待できます。

出典：日本の統計2023

教員１人あたりの児童数（小学生）

鹿児島 11.8人　東京 17.2人